

# 御所市総合防災訓練 6年ぶりの開催

## 防災意識向上、連携体制強化へ

御所市と市消防団は8日、同市朝町の市民運動公園第3グラウンドで、実践的な訓練を通して災害現場での防災関係機関の連携体制強化と住民の防災意識の高揚を図る「令和7年度市総合防災訓練」を開催した。同訓練は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け今回6年ぶりの実施。山田秀士市長をはじめ、県防災航空隊や救助犬訓練チーム「SARIDOG CWS」、日本赤十字奉仕団、市民ら約200人が訓練に参加した。



チェーンソーも使い迅速に倒木を撤去

訓練は南海トラフ地震を想定して実施。緊急地震速報アラームがあたりを鳴り響き、「和歌山県南方沖を震源にマグニチュード8・6の地震が発生、御所市内で震度6強の揺れを観測した」と説明された。

市はこれに対して災害対策本部を設置。御所消防署がグラウンド内に「現場指揮本部」を、消防団や日赤支部などが救助所を設置した。



建物内に要介護者が取り残されていないか救助犬が出勤

倒木の除去を実施。倒壊家屋を想定した場所では救助犬が出勤して、家屋内に取り残された「要救助者」を発見していった。

その後も、土のうを作成した堤防の補強活動、消防団が消防車を使った放水訓練を行った。それを披露しながら一般見学者にも分かりやすいように、土のうの積み方や、近くに水源がない時に消防車のホースをつないで、より遠くへ水を届ける方法などを解説した。



救助犬の鳴き声をもとに家屋の一部を切り取り救助活動

最後には市民参加の「大声コンテスト」を実施。子どもから高齢者まで18人が参加して「火事だ」「助けて」など火事にまつわる言葉を大声で叫び、最高で救急車のサイレンを超える128デシベルの声をあたりに響かせた。

閉会式で山田市長は「緊張感のある引き締まった訓練ができました。本日も参加いただいた全ての人に心より感謝いたします」と話した。



それぞれの役割をしっかりとこなす避難誘導にあたる

### 本番さながらに緊張感もって



作成した土のうを隙間なく積み重ねていく



初期火災にはバケツリレーで対応



要救助者の症状を見て適切に処置



山田市長が本番さながらに指揮にあたった



放水訓練も実施



大声コンテストでは最大128デシベルの声を響かせた



消防団や日本赤十字奉仕団なら約200人が訓練に参加